

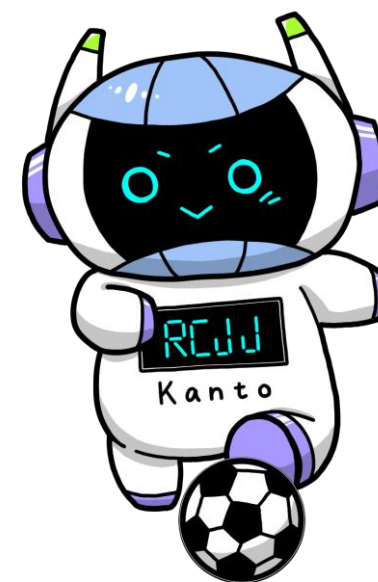


# ロボカップジュニア関東ブロック大会



<https://rcjj-kanto.org/>

**スポンサー募集**  
**賞品協賛／資金協賛**



ロボカップジュニア・ジャパン関東ブロック運営委員会

# ロボカップ(RoboCup)とは？



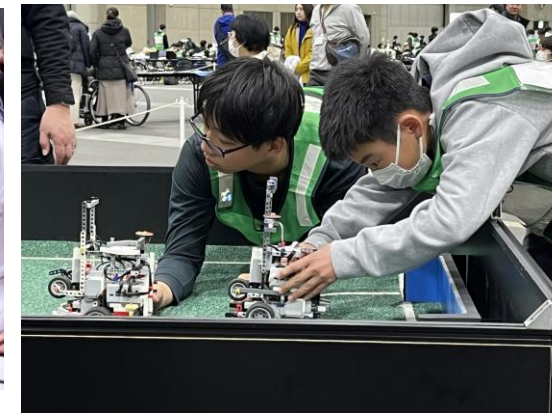
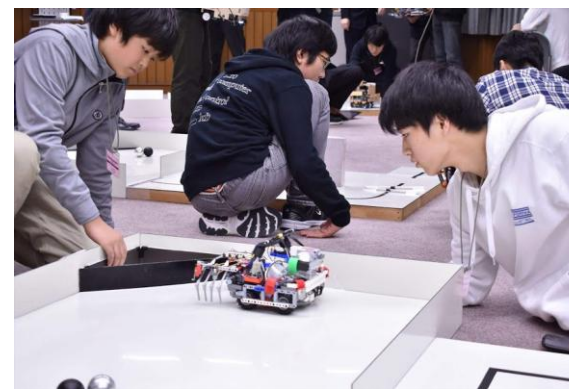
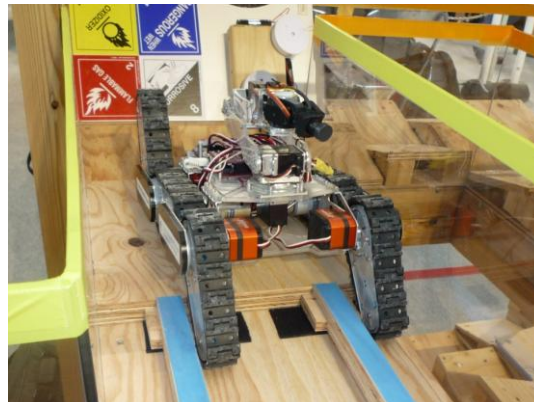
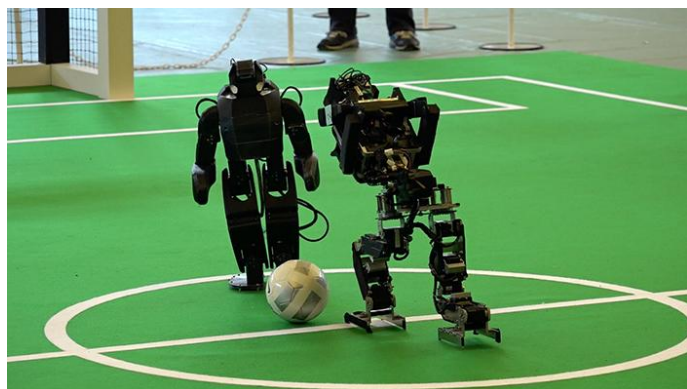
<https://www.robocup.or.jp/>

西暦2050年までに「人間のサッカー世界チャンピオンチームに  
勝てる自律型ロボットのチームを作る」という夢を掲げ、  
ロボット技術を育成するプロジェクト



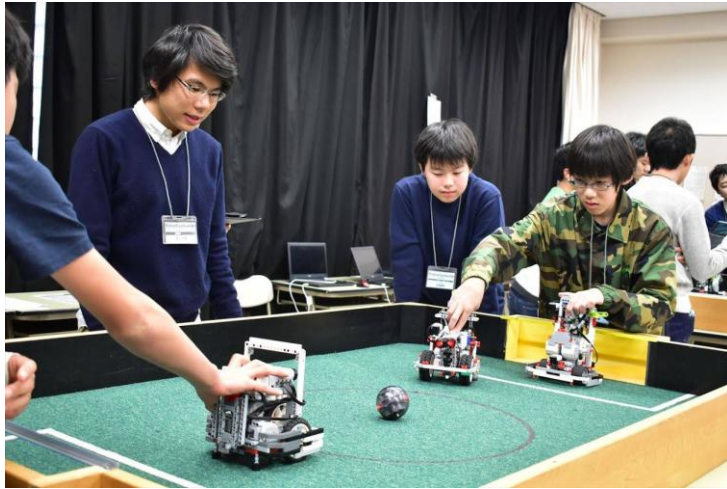
<https://www.robocupjunior.jp/>

ロボカップジュニア ( RoboCupJunior ) は ロボカップのカテゴリーのひとつであり、  
19歳以下の子供達が対象。次世代のロボカップーおよび技術者育成を担う新しい科学  
教育プログラムとして、世界大会には35カ国以上が参加しています。



# ロボカップジュニアの競技概要

「サッカー」「レスキュー」「オンステージ」のメインとなる3種の競技を通し、ラジコンのような人の操作によって動くロボットではなく、自分で考えて動く「自律型ロボット」を製作する力、そのロボットを説明するプレゼン力、同じ目標を持つ仲間と知識・技術を交流するコミュニケーション力を育む活動です。



■**サッカー**： チーム2台のロボットで2対2で行う。ロボットの重量によりリーグが分けられ、オレンジ色のボールや赤外線を発光するボールを使用。ボールやゴールを探すセンサーを搭載したプログラム、相手のロボットとボールを奪い合うハード製作を駆使。



■**レスキュー**： 被災した建物を想定したフィールドで1台のロボットが、障害物や坂などを制御し、被災者を見つけて救助する競技。黒いラインに沿って進む「レスキューライン」、壁に囲まれた迷路状のフィールドを走行する「レスキューメイズ」に分かれている。



■**オンステージ**： 自由な発想でロボットとコラボレーションするステージパフォーマンス競技。プログラムやロボットの構造・構成に加え、衣装やエンターテインメント性等の要素が審査に加わる。



# 各地での開催地と日本大会（ジャパンオープン）

ロボカップジュニアは、全国各地でノード大会(地区予選)が行われ、そこで勝ち抜いたチームがブロック大会へと進みます。ブロック大会は、毎年開催される「日本大会（海外チームのエントリーがあればジャパンオープン）」への選抜大会にもなります。



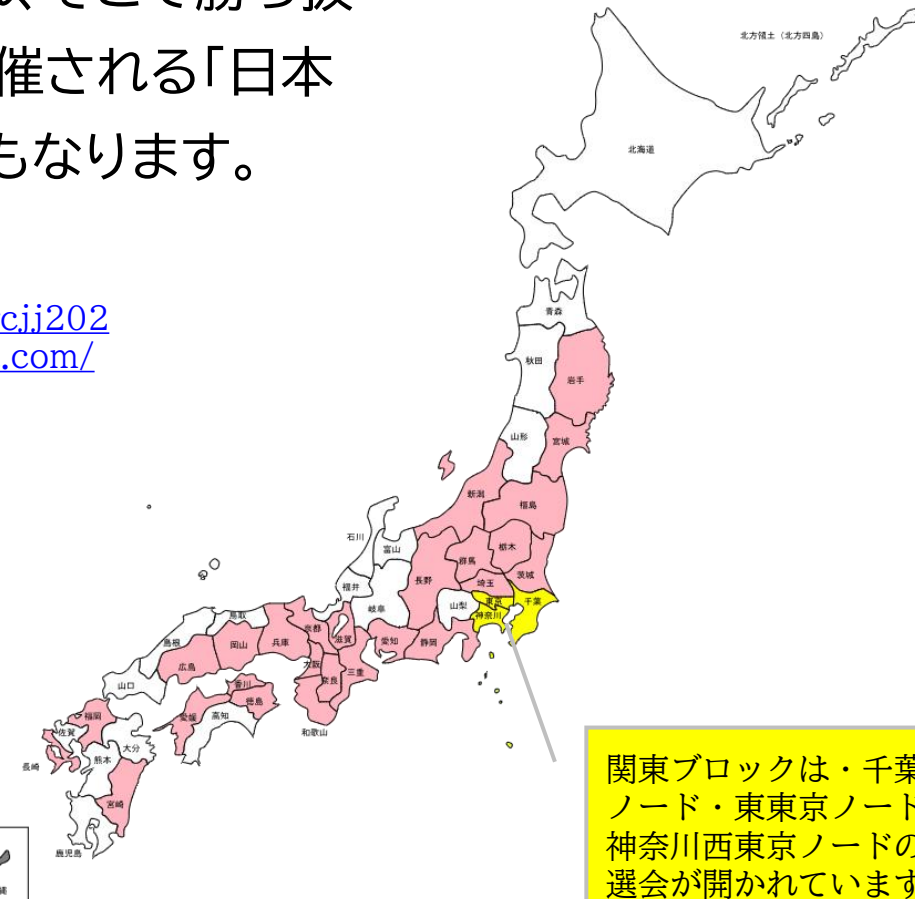
<https://rcjj2025nagoya.com/>

2025年のジャパンオープン(日本大会)は、3月29日～30日に名古屋市国際展示場(ポートメッセなごや)で開催されました。196(内海外9)チーム、選手数513(内海外32)名が参加。7月にブラジルのサルバドールで開かれる世界大会「RoboCup2025Salvador」出場を目指し、熱戦が繰り広げられました。関東ブロックからは全27チーム、選手数72名が参加しました。

関東ブロックチームの結果はコチラから⇒



ジャパンオープンに出場した関東ブロックの選手たち



全国のノード大会・ブロック大会開催地

# ロボカップジュニアの特長 ①

小学校でのプログラミング教育が2020年度に必修化されてから、多数のロボコンが立ち上げられました。数あるロボコンの中でも、ロボカップジュニアには以下のような特長があります。

## 20年以上続く伝統あるロボコン

1993年にサッカーをテーマに掲げたロボット競技会が研究者たちにより世界で立ち上げられ、2001年に日本で初めてロボカップジュニア競技が開かれました。関東最初のロボットサッカー競技会は2002年に開かれ、2004年に関東ブロックを発足。コロナ禍でもオンライン等で競技を続け、20年間一度も途切れることなく開催し続けています。

関東ブロック2024年大会実績は、ノードエントリー129チーム、選手数285名。関東ブロックは、日本の競技人口の約17%を占める日本最大のブロックです。そのため、日本大会への選抜も難関を極め、結果、全国で最もレベルの高いブロック大会で展開されています。



2021コロナ禍でオンライン開催

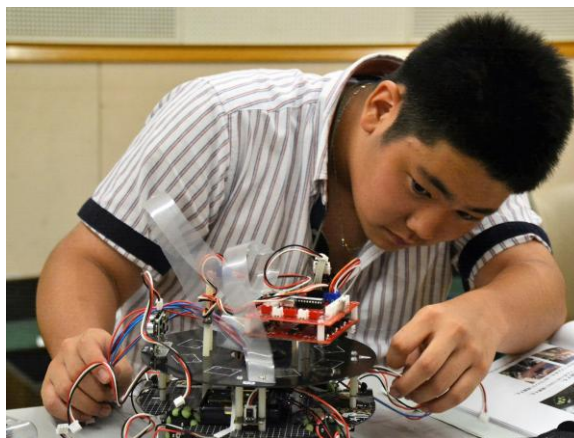
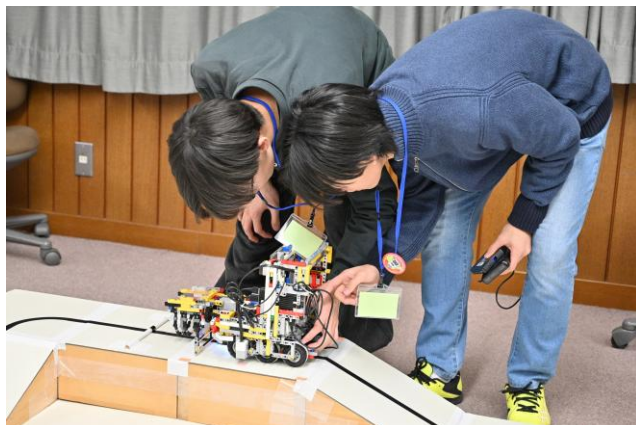


## 知識・技術レベルでジュニア部門トップクラス

ロボットキット販売に関わる企業主催のロボコンとは異なり、人工知能研究者の学会を基にしている「ロボカップ」は、材料やキットに制限がありません。自由に自律型ロボットを製作することは、それだけ技術・知識が必要で、競技ルールはジュニア対象のロボコンとしては、ずば抜けてレベルが高いです。

小学生には最初から高レベルのロボット製作は難しいため、ジャパンオープンを頂点とする「チャレンジクラス」があり、世界大会出場を目指す「ワールドクラス」に分かれ、各レベルに応じた競技ルールを設定しています。

また、大会では各チームのロボットの詳細を説明する「プレゼンテーションポスター」の提出が義務付けられています。知識・技術の交流として、オープンにすることで、さらにレベルアップした大会へと成長していきます。



プレゼンテーションポスター

# ロボカップジュニアの特長 ③

## ロボカップジュニアOBは将来有望な人材ばかり！

「ワールドクラス」にチャレンジする選手たちは、高専生・工学系の学生たちが多く、将来エンジニアを目指しています。そんな先輩たちのロボットや技術に憧れ、交流することで、「チャレンジクラス」の小中学生たちは、具体的に進学する高校や大学などを決めるきっかけとしています。

また、ロボカップジュニアOBたちは、ボランティアで就職後も大会運営スタッフとして協力してくれています。選手たちとスタッフとの交流は、将来の就職先など進路を相談できる貴重な場です。

先述の通り、知識・技術トップレベルの大会であるロボカップOBは、人材の宝庫です。その中でも、最大ブロックかつ上位大会選抜最難関の関東ブロック大会はトップレベルの人材が集結しています！



ジャパンオープン、アジアパシフィック大会、世界大会で活躍した関東ブロックのチーム



# ロボカップジュニア関東ブロックOB

2024年4月、「関東ブロック大会20周年記念OBOG会」を開催。総勢70名が集結しました。  
OBたちの経歴を一部をご紹介します。



**SRさん**:2008年～2015年頃までサッカー競技でロボカップジュニアに参加。国立高専、東京都立大修士課程修了、富士電機(株)入社。



**KYさん**:2010年～2014年頃までレスキュー競技でロボカップジュニアに参加。電気通信大学院修士課程修了、(株)CISCO入社。



**MSさん**:2009年～2014年頃までレスキュー競技でロボカップジュニアに参加。東京工業大学博士課程修了、国立大学の産学官連携研究員。



**MMさん**:2013年～2016年頃までオンステージ、レスキュー競技でロボカップに参加。慶応大学大学院博士課程在学中。



**NSさん**:2013年～2022年頃オンステージ、レスキュー競技でロボカップに参加。都立産技高専、東京都立大学院修士課程修了。ソニー(株)入社。



ロボカップジュニアの経験を経て、それぞれの道を自信を持って進んでいるOBOGたち。これからの日本の未来を創る優秀な人財にあふれていました！！



# ロボカップジュニア関東ブロックOBの進路

ロボカップジュニア関東ブロックのOBは、多岐にわたり活躍しています！

## ■進学先

慶応義塾大学・大学院 / 芝浦工業大学・大学院 / 千葉大学 / 千葉工業大学 / 筑波大学・大学院 / 電気通信大学・大学院 / 東京医科大学 / 東京工業大学・大学院 / 東京工芸大学 / 東京農工大学・大学院 / 東京都立産業技術高等専門学校・専攻科 / 東京都立大学・大学院 / 長岡技術科学大学・大学院 / 日本工業大学 / 北海道大学・大学院 / 明治薬科大学 / 早稲田大学・大学院 （五十音順）

## ■就職先

アーク不動産株式会社 / 株式会社アクセンチュア / 株式会社アルプス技研 / 株式会社インテージ / 株式会社GSユアサ / 公立小学校教員 / 群馬大学 / 株式会社静甲 / 情報通信研究機構 / 成田国際空港株式会社 / 任天堂株式会社 / 株式会社安川電機 / 株式会社TVT / 株式会社TMEIC / 株式会社デジタルガレージ / 株式会社ディスコ / 株式会社デンソー / 東京工科大学 / 株式会社日ノ出商会 / 日本工営株式会社 / パナソニックITS株式会社 / サンケン電気株式会社 / ソフトバンク株式会社 / ソニー株式会社 / ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社 / 富士電機株式会社 / マルアイグループ / 有限会社六方 / リンク情報システム株式会社 / ローム株式会社 / 株式会社ボッシュ（順不同）

ロボカップジュニア関東ブロックは20年以上の歴史があり、多くの人材を輩出しています。

# 今年度のロボカップジュニア関東ブロック大会

## ロボカップジュニア2026関東ブロック大会開催概要(予定)

- 開催日程: 2026年1月11(日)～12日(月祝) 2日間開催
- 開催場所: 東京都立産業技術高等専門学校品川キャンパス=右写真=
- 開催競技: サッカー、レスキュー、オンステージ  
(ワールドクラス／チャレンジクラス)
- 参加予定: 19歳以下のノードエントリー150チーム、選手数300名  
ノードで選抜されたチームが関東ブロック大会に出場(受入れ80チーム、150名を予定)
- 開催目的: 関東ブロック内で活躍するロボカップジュニア参加者および広く科学技術に関する興味関心を持つ子どもたちを対象に、子どもたちの技術力、コミュニケーション／プレゼンテーション力の発表、学習、評価と交流の場として競技会を提供する。また、上位大会である日本大会(ジャパンオープン)への参加チームの選抜も行う。
- 主催: ロボカップジュニア・ジャパン関東ブロック運営委員会
- 共催・後援: 一般社団法人 ロボカップジュニア・ジャパン ■ 協力: 東京都立産業技術高等専門学校





## (1) 認知度の向上:会社のイメージアップ

ハイレベルなロボコンであるロボカップジュニアのスポンサーになることで、エンジニア希望の参加選手・興味のある見学者にフォーカスして、社名と製品やサービスについて知ってもらう最良な機会となります。参加している選手たちは学生のため、企業名等について未知で、ロボカップでの出会いをきっかけに、将来の夢を描き、製品やサービス等の企業が貢献している内容を具体的に知るようになります。企業の良さをトップレベルの技術者、その卵たちに広く知ってもらえる機会となると考えています。

## (2) CSR活動として:社内外への企業の社会貢献が示せます

ロボカップジュニアは、STEAM教育やAI/ロボット技術の発展に貢献するとともに、若手技術者の育成に役立っています。CSR活動（企業の社会的責任）の一環として貴社がロボカップジュニアを支援することで、これらの分野に貢献することができます。また、自社内だけでなく社会的にもエンジニア育成に貢献していることを1つの指標として示すとともに貴社が技術革新に注力していることをアピールすることができます。自社の社員に向けても、スポンサーを行うことで、エンジニア育成、AIやロボットへの技術に力を入れていることが伝わり、自社を誇りに思う、あるいはスポンサー企業として大会を見に行こうという技術への関心も生まれます。

## (3) 人材採用面:将来のスーパーエンジニアとなる参加者との交流

ロボカップジュニアの参加者は、小学生から大学生まで幅広い年齢層がいます。選手同士の交流だけでなく応援や協力しに来るOB・OG・関係者との接触機会もあります。知識や技術面で優れているだけでなく、人間性やコミュニケーション力も養われた優秀な学生たちとつながることができるため、新たな採用チャンスの創出にもつながります。

# 賞品スポンサーのご案内

貴社製品がある場合、ぜひ製品アピールとして製品をご提供いただければ幸甚です。表彰チームへの副賞として、参加者に贈呈いたします。大会の参加者は、各社からの賞品を非常に喜んでいます。表彰の際、スポンサー企業名・製品内容等、賞品紹介いたします。受賞者だけでなく、参加者全員に非常に高くアピールできます。

また、貴社製品だけでなく、競技者が喜びそうな賞品をご提供いただけるのも大歓迎です。

多数のご提供をいただいた場合は、**貴社の特別賞**を設置することもできます。貴社がロボカップジュニアに求める能力や技術を披露したチームに、競技結果関係なく表彰いたします。ご都合つけば、ぜひ、貴社から大会に審査員として来場いただき、自ら対象チームを選んでいただくこともできます。



ロボカップジュニアOBが個人で提供した  
工具やプラモデルの副賞(2024大会)



副賞と賞状を手にした受賞選手



20周年記念OB会で集まった募金で副賞を  
提供(2025大会)。興味津々の参加選手たち。



# 資金協賛のご案内

大会運営における資金協賛を1万円～募集しています。前述の上位チームへの副賞賞品費、大会参加選手への参加賞、運営費(スタッフの謝礼、運営材料費)等、本大会の開催に必要な事業費に充当します。関東ブロック大会HPのバナーや、大会当日のパンフレット、参加者全員に配布する参加証や缶バッジ、スタッフユニフォームなどに、貴社のロゴやバナーを掲載いたします。大会会場での貴社のパンフレット配布等も可能です。



関東ブロック大会HPのトップページ



ロボカップOBによるデザインで完成した関東ブロック大会キャラクター「Kanto」。参加選手全員に缶バッジをプレゼント。スタッフユニフォームにも。





# お申込み・問い合わせ先

ロボカップジュニア・ジャパン関東ブロック運営委員会  
宮下 充 (ロボカップジュニア・ジャパン関東ブロック運営委員長)  
[sponsor@rcjj-kanto.org](mailto:sponsor@rcjj-kanto.org)

事務局：中島 (NPO法人科学技術教育ネットワーク)、名村(ロボカップジュニアOB)  
〒101-0041東京都千代田区神田須田町1丁目7番8号 VORT秋葉原IV 2F  
ロボカップジュニア関東ブロック運営委員会

ロボカップジュニア・ジャパン関東ブロック運営委員会  
組織図はコチラをご覧ください⇒



関東ブロック発「We are Robocuppers!!」  
のかけ声とポーズで、元気よくさわやかな大会  
イメージが広まるよう鋭意運動中!!



<https://rcjj-kanto.org/organization/>

